

“良い図書館を良いと言う” Library of the Year 2018

2018年10月30日（火）13:00～14:30

パシフィコ横浜 第20回図書館総合展合展 展示会場内

お問合せ：<https://www.iri-net.org/contact-us/>

概要：<https://www.iri-net.org/loy/library-of-the-year-2018recommendation/>

Library of the Year とは

Library of the Year (LoY) は、NPO法人 知的資源イニシアティブ (IRI) のLoYを担当する理事及び選考委員会 (LoY2018選考委員長：山崎博樹) が中心となり、図書館など全国の知的情報資源に関わる機関を対象とし賞を授与する事業です。この事業は2006年に始まり、今回で13回目の開催となります。

選考基準は以下のとおりです。全国の公共図書館を総合的に評価して、ベストの図書館を決めるものではありません。

- 1 図書館及びそれに準ずる施設・機関における他の図書館の参考となる先進的な取り組みや活動について評価し選考する。
- 2 対象となる機関は、公立図書館、大学図書館、専門図書館、学校図書館、図書館団体、図書館関連企業など。
- 3 ここ数年の活動を評価対象期間とする。※ 施設や機関の規模の大小は問わない。

最終選考会について

2018年10月30日（火）13:00～14:30 パシフィコ横浜(横浜市みなとみらい)にて、ライブラリアンシップ賞受賞館の紹介と表彰式および二次選考で決定した優秀賞機関を対象とした大賞の最終選考会を図書館総合展運営委員会と共催し開催します。最終選考会では優秀賞機関がプレゼンテーションを行い審査員による討論会、投票によって大賞を決定します。また、会場からの投票（事前投票含む）により、オーディエンス賞を決定します。

Library of the Year 2017 大賞の瀬戸内市民図書館もみわ広場 様からのコメント

市民のみなさんが、それぞれに持っている知りたいことを「もちより」、そして、そのヒントや答えを「みつけ」、そして、その気付きや学びを他の市民のみなさんとも「わけあう」、そうした知の連帯のある居場所を「もみわ広場」として育てたいと願いました。これからも、市民のみなさんとともに、この広場を育てていきたいと思えます。

NPO法人 知的資源イニシアティブ (IRI) とは？

■活動目的

幅広い知的情報資源の構築と、知的サービスの普及により、創造的な社会を構築。

■経緯

2001年に発足した任意団体「知的サービス研究会」を発展的に、NPOとして組織化。2003年にスタート。

Library of the Year 2018 開催のためのご支援・ご協賛

■クラウドファンディング

ご支援金額：251,000円

ご支援人数：のべ39人

■企業ご協賛

 キハラ株式会社

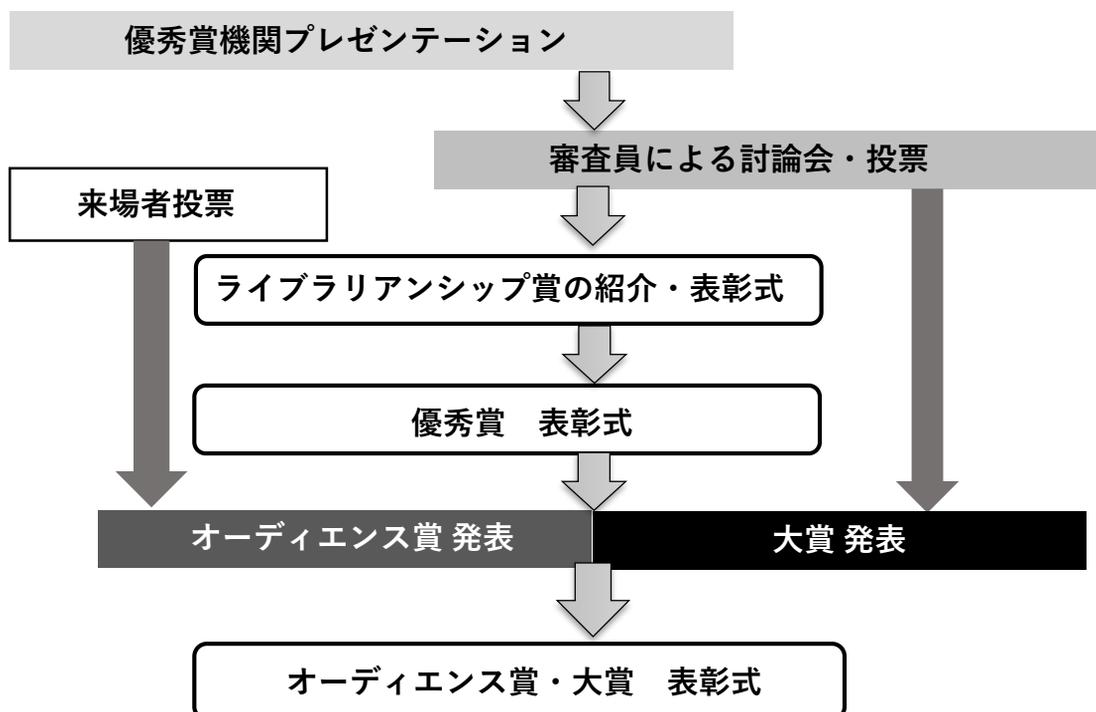
 富士通システムズアプリケーション&サポート

 株式会社内田洋行

ご支援・ご協賛ありがとうございました！！

Library of the Year 2018

最終選考会の流れ



募集

29

一次選考

7月

11

二次選考

8月

優秀賞 4

ライブラリアンシップ賞 1

2017年12月 IRI内部にてLoY2018開催 検討開始
2018年

- 4月 9日 IRI理事会にてLoY2018の開催決定、選考委員の決定（計11名）
- 5月14日 IRI総会にてLoY2018開催承認
- 5月29日 一般公募開始（IRI_HPにて） ※締め切り7月10日 ※29機関の応募・推薦あり
- 7月29日 LoY2018第一次選考会開催。二次選考会に進む11機関決定。
- 8月21日 第一次選考結果公表（IRI_HPにて）
- 8月25日 LoY2018二次選考会開催。優秀賞4機関、ライブラリアンシップ賞1機関決定
- 8月31日 第二次選考結果公表（IRI_HPにて）
- 10月30日 最終選考会（本日） 大賞およびオーディエンス賞決定！

LoY2018選考委員および外部推薦で寄せられた29施設・団体・サービスの中から、下記の11機関が一次選考を通過しました。※順不同、外部からの推薦があった館には（*）をつけています。

- ・ 恩納村文化情報センター（*）
- ・ 甲州市立勝沼図書館
- ・ 幕別町図書館
- ・ 小山市立中央図書館
- ・ 国立がん研究センター
- ・ 超高齢社会と図書館研究会（*）
- ・ 帝京大学メディアライブラリーセンター
- ・ 白山市立松任図書館・学校図書館支援センター（*）
- ・ 3.11オモイデアーカイブ
- ・ バリューブックス
- ・ ビジネス支援図書館推進協議会

選考委員会は、以下11名で構成されました。
※敬称略、順不同 ◎は選考委員長

山崎博樹(IRI理事) ◎
岡本真(ARG)・平賀研也(県立長野図書館)・猪谷千香(文筆家)
今井福司(白百合女子大学)・桂まに子(京都女子大学)
呉屋美奈子(恩納村文化情報センター)
河瀬裕子(くまもと森都心プラザ図書館)
石川靖子(横手市立平鹿図書館)・嶋田学(瀬戸内市市立図書館)
豊田恭子(株パーソン・マーステラ)

本最終選考会は、以下のメンバーにより、実施・運営されています。
※敬称略、順不同 ◎は実行委員長

伊藤隆彦(IRI理事) ◎
岡本明(IRI理事)
佐々木千代子(葛飾区立上小松図書館)
石川靖子(横手市立平鹿図書館)
椛本世志美(目黒区立八雲中央図書館)
張玉瑩(IRI賛助会員社員)
黒田久美子・呉佳美(IRI事務局)

※五十音順



氏原 茂将 (うじはら しげゆき)

プランナー／コンサルタント。1977年、京都市生まれ。北九州イノベーションギャラリー（福岡県）の開館記念展「遊びイノベーション」（2007年）の企画に関わった後、2008年よりNPOコミュニティデザイン協議会の一員として川口市映像・情報メディアセンターメディアセブン（埼玉県）の企画・運営に携わる。その間、東日本大震災からの復興事業である釜石情報交流センター（岩手県）の基本構想・基本計画に関わる。2014年よりプランナー／コンサルタントとして自治体の教育・文化等の政策立案などに従事する。



岡本 正 (おかもと ただし)

弁護士・博士（法学）・マンション管理士・AFP・医療経営士・防災士・防災助士。銀座パートナーズ法律事務所。1979年、鎌倉市生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。2003年弁護士登録。内閣府行政刷新会議事務局上席政策調査員として出向中に東日本大震災が発生。日弁連災害対策本部室長を兼任し復興政策に関与。経験をもとに「災害復興法学」を創設。慶應義塾大学や青山学院大学で講師を務める。中央大学大学院公共政策研究科客員教授や文部科学省原子力損害賠償紛争解決センター総括主任調査官も務めた。危機管理・防災の専門家として公職・メディア出演・著作多数。主な著書に『災害復興法学』（2014）『災害復興法学Ⅱ』（2018）『災害復興法学の体系：リーガル・ニーズと復興政策の軌跡』（2018）



加納 尚樹 (かのう なおき)

接遇コンサルタント。1971年、東京都生まれ。イギリスの大学でホテル経営学を学び、帰国後、多くのホテルで主に教育担当とレ・クレドールメンバーのコンシェルジュとして勤務。独立後、ホテル・医療施設・高級車販売店・トレーニングジム・役所・リゾート地ほか、図書館以外でもコンシェルジュマインドを軸に現場に合わせた接遇とSERVICE全般を教授している。著書に『ホテルから学ぶ図書館接遇』（青弓社、2018）



永江 朗 (ながえ あきら)

フリーライター。1958年、北海道生れ。法政大学文学部卒。洋書輸入販売会社・ニューアート西武に勤務しながらライターに。同社退社後、「宝島」「別冊宝島」編集部にて在籍。93年よりライター業に専念。2008年～13年、早稲田大学文化構想学部教授（任期付）。日本文藝家協会理事。主な著書に『「本が売れない」というけれども』『51歳からの読書術』『おじさんの哲学』『東大v.s.京大 入試芸芸頂上作戦』『四苦八苦の哲学』など。



水島 久光 (みずしま ひさみつ)

東海大学文化社会学部教授。1961年生まれ。専門はメディア論、情報記号論、アーカイブ研究。慶應義塾大学経済学部卒業後、旭通信社（現ADK）でマーケティングを担当した後、「Info seek」の日本法人設立に参加。編成部長を務める（～2001）。2003年東京大学大学院学際情報学府修士課程修了。同年東海大学文学部広報メディア学科に着任。著書に『テレビジョン・クライシス』（せりか書房、2008）、『メディア分光器』（東海教育研究所、2017）原田健一との共編著に『手と足と眼と耳—地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』（学文社、2018）